

本会の活動から

予防医学事業中央会 令和7年度第2回全国運営会議に参加

令和7年度第2回全国運営会議（主催 予防医学事業中央会）が11月6日、東京都港区で催され、全国32支部より約110人が参加した。この会議は、予防医学事業中央会の都府県支部の役員、事務局長等を対象に年2回開催される。本会からは、理事長の久布白兼行、専務理事の前田秀喜、以下役職員18人が参加した。このうち、健康増進部長の加藤京子が「健康経営[®] 6年間の取り組み」と題して講演した。

予防医学事業中央会 第70回予防医学事業推進全国大会を開催

予防医学事業中央会と本会が共催した、第70回予防医学事業推進全国大会が11月7日、「予防医学への想いを繋ぐ、未来へ継なぐ——挑戦は70年の轍のその先へ」をテーマに東京都港区で催され、全国から約300人が参加した。本会からは、理事長の久布白兼行、専務理事の前田秀喜、以下役職員50人が参加した。当日は山田邦子氏（ものまね漫談）と北村邦夫氏（日本家族計画協会 会長）による記念特別対談が行われた他、予防医学事業の発展・向上に顕著な功績のあった11人の表彰が行われた。本会からは専務理事の前田秀喜に厚生労働大臣表彰、健康増進部長の加藤京子に予防医学事業中央会賞（小宮記念賞）が贈られた。また、大会前日に行われた奨励賞授与式では本会施設健診事業部と検診検査部の職員2人が表彰された。

学術集会への参加等

●第52回日本マスクリーニング学会学術集会が10月3～4日に愛知県名古屋市で開催され、母子保健検査部長の石毛信之の他、同部の職員2人が参加した。このうち、渡辺和宏はシンポジウム1で「副腎過形成症スクリーニングの精

度向上と標準化を目指して」と題して講演。山名愛美は「東京都における拡大新生児マスククリーニング公費後の実施状況」について口演発表を行った。また、石毛信之はシンポジウムやワークショップ等で座長や講演を行った。

●米国公衆衛生試験所協会（APHL）2025年新生児スクリーニングシンポジウムが10月5～9日に米国ロードアイランド州プロヴィデンスで開催され、母子保健検査部長の石毛信之が参加し、「米国外の新生児スクリーニング検査の動向」のセッションで「日本におけるSCIDおよびSMAの試験的な外部精度管理体制」について口演発表を行った。

●第34回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会が、10月4～5日に東京都千代田区で開催され、理事長の久布白兼行、理事の黒田聰史、健診事業部長の廣瀬篤史の他、同部の職員2人、検査研究センターセンター長の藤井多久磨、母子保健検査部の職員1人が参加した。このうち、花出有芸はワークショップ1で「子宮がん検診における精度管理の実際～検査士の立場から～」をテーマに講演した。

機関誌『よぼう医学』冊子版 発行終了のお知らせ

このたび『よぼう医学』は、2026年春号（2026年4月中旬発行）をもって紙媒体による刊行を終了し、デジタルメディア版への移行を進める運びとなりました。

1969年の創刊以来、本誌をご愛読・ご支援くださった読者の皆さん、ご寄稿いただいた執筆者の皆さん、ならびに関係スタッフの皆さんに、改めて心より厚く御礼申し上げます。

今後も、「質の高い予防医学の情報を社会に発信する」という使命の下、情報発信を続けてまいる所存です。引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

『よぼう医学』発行人
公益財団法人 東京都予防医学協会 理事長 久布白 兼行